



# 夏のオススメ本紹介

## YA担当より

暑い夏は外で体を動かしたり、野外イベントもいいですが、涼しい場所で読書なんて最高ですね。夏休みの宿題の合間や、宿題が終わった後のお楽しみに、こんな本はいかがですか？ヤングコーナーに足を運んで、お気に入りの一冊を見付けるのも素敵ですね。

①

『いくたのこえよみ』  
堀田 けい／作  
理論社  
児童書架 913ホ  
(今年度の西日本読書感想画  
コンクール指定図書のため  
児童書架にあります)



たいくつな毎日を送っていたオガタは、目立たない転校生イクタの秘密を知る。人の心の声がよめるというのだ。

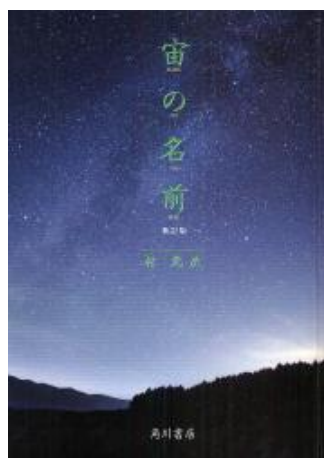
オガタはイクタに弟子入りを頼みこみ、「こえよみ」修行をはじめめる。イクタが出した修行の課題にへこたれそうになるオガタだが、カタギリというマネージャーを仲間に加え、修行を続ける。

そんな中、オガタはイクタが本当に「こえよみ」ができるのかをうたがってしまい…。



②

『宙の名前(新訂版)』  
林 完次／写真・文  
角川書店  
YA書架 440 ハ

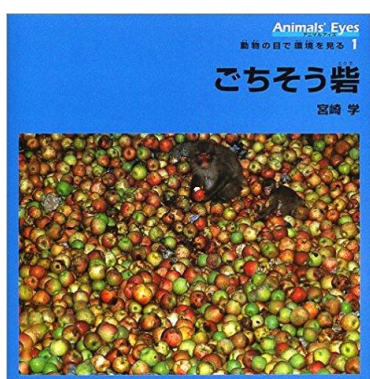


月の章、夜の章、天の章、それからそれぞれの季節の星の章にわけて、宙に関する名前を紹介した本。よく聞く「乙女座」といった星座の名前から、あまり馴染みのない「<sup>やらいほし</sup>矢来星」などの星の和名や中国名、「<sup>よる とぼり</sup>夜の帳」や「<sup>やき</sup>夜気」といった言葉、そしてなぜか「UFO」まで。パラパラ見ながら気になった名前を見てみたり、綺麗な写真を眺めるだけでも楽しい本です。



③

『アニマルアイズ  
動物の目で環境を見る 1  
ごちそう砦』  
宮崎 学／著  
偕成社  
YA書架 481 ミ



動物写真家である著者は、被写体として生き物達を追いかけるうちに、なぜか自然の中ではなく、人のくらしに近づいていくことに気付く。

表紙いっぱいの廃棄リンゴに群がるニホンザル。廃棄された果物等は「規格外」で人が食べないもの。でも生き物達にとってはごちそう。いつか彼らが「規格内」に気づいた時、人はどうするのだろうか。

写真を通し「環境」を考えるシリーズです。  
(全5冊)



④

『私は存在が空気』  
中田 永一／著  
祥伝社  
YA書架 十カ



木造二階建ての古びたアパート・六花荘。ある冬の日、湯川四季という女性が引っ越してくる。一見普通に見える彼女だが、くしゃみをした瞬間、ほんの僅かだが畳が焦げるという現象が起こる。彼女にはある秘密があったのだ。(「ファイアスターター湯川さん」より)

瞬間移動やパイロキネシスなど、特殊能力を持った登場人物たちのどこか切ない短編恋物語。

